

第三章 立会・試掘調査

III-1 黒髪南地区

(図 23 参照)

1. 工学部研究実験棟Ⅱ-2-2新営工事植樹に伴う立会調査(9903)

〈調査日〉

1999年6月17日

〈調査面積〉

10m²

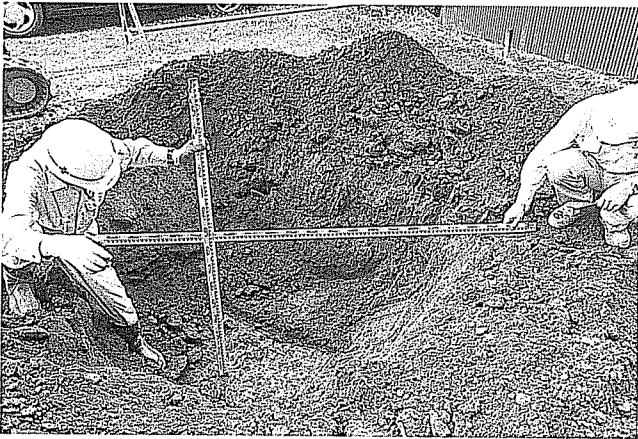
〈調査員〉

小畑弘己

〈調査概要・結果〉

工学部事務棟(9603調査地点)の南側駐車場部分にあたり、先の調査所見から旧工学部運動場のため2mあまり削平を受けている可能性があった。立会調査の結果でも地表下80cmまで掘下げたが、埋土であり、遺物・遺構ともに発見されなかった。

写真 50 9903 地点掘削状況(北より)



2. 自然科学研究科・理学部総合研究実験棟新営ガス設営工事立会調査(9905)

〈調査日〉

1999年7月29・30日

〈調査面積〉

50m²

〈調査員〉

小畑弘己

〈調査概要・結果〉

掘削幅が50cmと狭く、また掘削部が植栽のある盛土

部分に相当するため、若干の土器片は採集できたが、遺構は検出することができなかった。

写真 51 9905 地点立会掘削風景(北西より)



3. 自然科学研究科・理学部総合研究実験棟新営電気設営工事に伴う立会調査(9906)

〈調査日〉

1999年7月29・30日, 8月5日~8月7日

〈調査面積〉

200m²

〈調査員〉

小畑弘己

〈調査概要・結果〉

新築中の建物の電線の屋外埋設に伴う立会いである。幅1mあまり、全長200mで、地表下1mあまりの掘削深度であるため、3回に分けて立会調査を実施した。Ⅱ区については工事日程の関係から、休日に調査が設定された。

全区間において、5条ほどの溝を中心とした遺構を検出した。この一帯は-60cmほどで遺物包含層が現れ、遺構検出面はところによっては50cmあまりとかなり浅い部分も存在した。工事期間が切迫しており、十分な調査が行えない状況であった。部分的には掘削後に断面で溝跡を確認するなど、不手際があった。

溝はほとんどが古代に属するものと考えられ、南北方向のもの(第2~5号溝)はほぼ磁北に一致する遺構の主軸方向を示していた。Ⅰ区で検出した1号溝はほぼ東西方向の主軸をとる。遺物としては古代土器片が少量出土した。

写真 52 9906 地点 I 区全景 (北より)

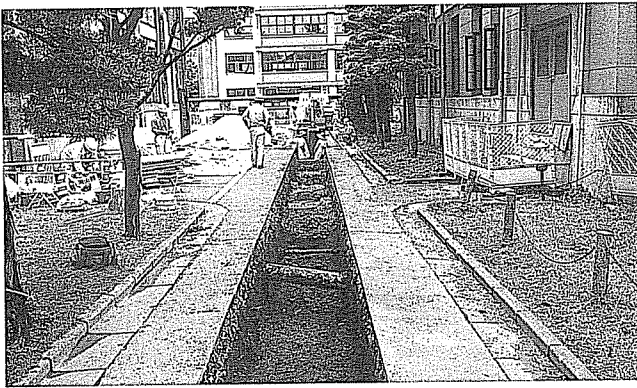


写真 53 9906 地点検出の第 1 号溝 (東より)

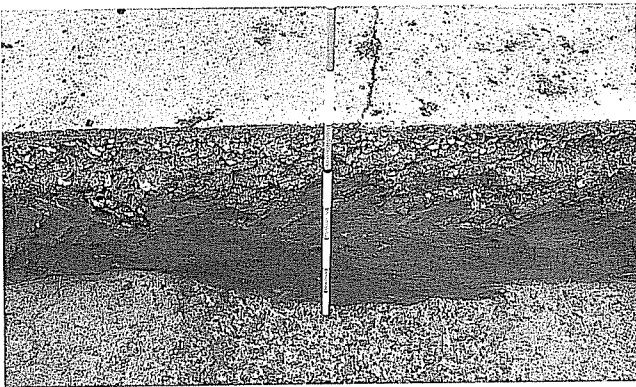
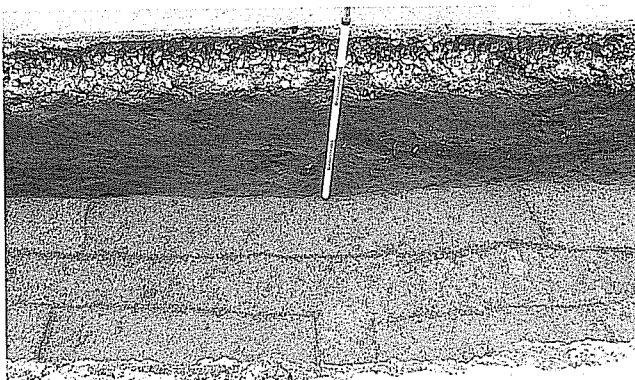


写真 54 9906 地点検出の第 2・3 号溝 (南東より)



写真 55 9906 地点検出の第 5 号溝 (南より)



III-2 本荘北地区

(図 2 参照)

1. 血液照射管理室増築工事に係る試掘調査 (9910)

〈調査日〉

2000 年 1 月 25 日

〈調査対象面積〉

2m²

〈調査員〉

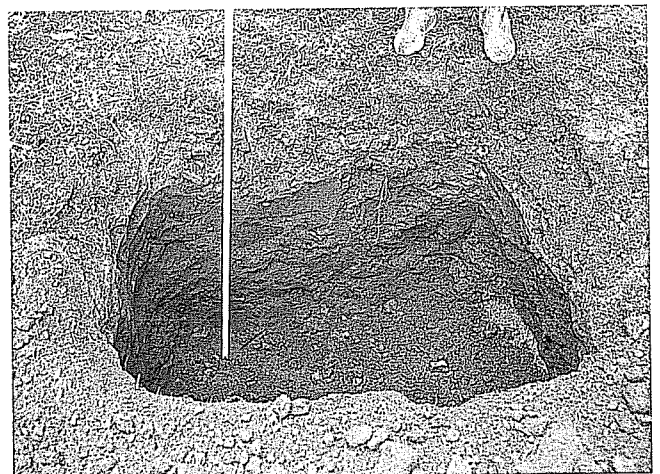
大坪志子。

〈調査概要・結果〉

年度当初は予定されていなかった事業でのひとつである。計画が浮上した当初は年次報告書の作成期間を避け、3 月以降に実施する予定であった。しかし、補正予算のため衝撃・極限環境研究センターサテライト・ベンチャービジネスラボラトリー新営工事に係る調査を急遽実施しなければならず、2 月から小畑が後者の工事に係る調査をおこなうことになり、また 3 月以降に実施しなければならない発掘調査・立会調査が集中しており、年次報告作成の合間に大坪がことに対処することとした。

調査対象地は周囲を建物に囲まれ重機の搬入が不可能であり、また 1997 年に行われた既存建物の調査結果から攪乱を受けている可能性も高く、まず人力による試掘をおこなうことにした。調査地は既に周囲 3 方と中央にガス管が通っており、水道管 2 本と柵も設置されていた。攪乱を受けていないと思われる 2 箇所¹に 1 × 1m、深さ 1m のトレンチを入れたが既に攪乱を受けており遺構・包含層ともに確認されなかった。調査対象地内のほぼ全体にわたり攪乱を受けており遺構面が遺存している可能性は非常に少ないものと判断した。

写真 56 9910 地点試掘トレンチ (西より)



Ⅲ－3 本荘南地区

(図 25 参照)

1. 医学部エイズ学研究センター・動物資源開発研究センター新営に係る配管切替工事立会調査 (9801)

〈調査期間〉

1999年3月10日～3月31日

〈調査対象面積〉

57.5m²

〈調査員・参加者〉

大坪志子.

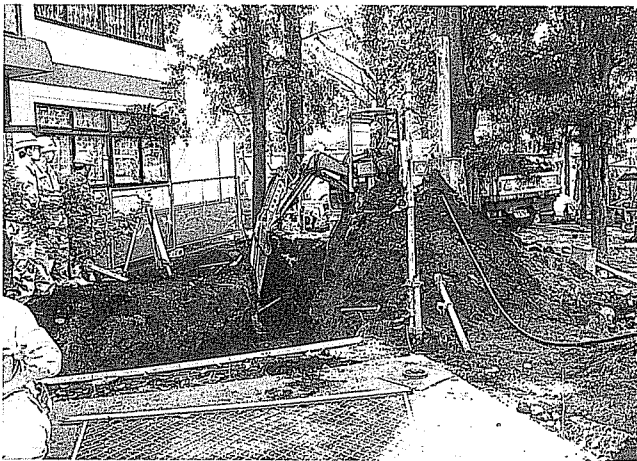
土田ちえみ, 林田恵子.

〈調査概要・結果〉

昨年度末, 急遽申し渡された調査であり, 調査日程が昨年度の年次報告書の作成期間中であったため本年度の年次報告に調査結果を掲載する。

現存の動物実験棟関連の電気・ガス・給水・排水関係の切替を行うもので, 掘削の深さが遺物包含層に達する排水と電気関連マンホールの部分について立会調査を実施した。実際掘削をすすめると施設部から渡されていた既設配管配置図とは実際の配管が合わず施工不可能な場所があり, その場で排水管の柵の位置については4箇所変更, 2箇所について設置を取りやめ, 排水管もこれらに合わせて配管を行った。柵部分において2箇所, 遺構面に達した。うち1箇所で浅いピット状の遺構検出し, 記録をとった。他1箇所では遺構は確認されず, 排水管部分についても遺物包含層・遺構面には達せずそのまま切替工事をおこなった。

写真 57 9801 地点掘削状況 (南より)



2. 医学部エイズ学研究センター動物資源開発センター新営電設工事に伴う立会調査 (9902)

〈調査期間〉

1999年6月14日～7月14日

〈調査面積〉

40m²

〈調査員〉

小畑弘己.

〈調査概要・結果〉

本工事は, 電線埋設溝とそれに付随するマンホールの設営であり, 溝に関しては, -80cmと従前の発掘調査や立会調査の結果からほぼ包含層上面にあたるため支障はないものとし, マンホールの掘削箇所についてのみ立会調査を行った。

その結果A地点で埋設管や後世の攪乱や埋め土が認められ, B～H・J地点においては包含層を確認し少量の遺物が出土したが, 遺構は認められなかった。しかし, I地点では包含層下(地表下125cm)においてほぼ北方向に走る幅35cm深さ20cmあまりの断面U字形の溝1条とその東1mの地点で2個の接続する柱穴(直径20cmあまり)を検出した。溝や柱穴からの遺物の出土はなかったが, 方向や土の色からして, これらは古代の遺構と考えられる。

写真 58 9902 地点I地点遠景 (南より)



写真 59 9902 地点I地点遺構検出状況 (南より)



3. 医学部エイズ学研究中心・動物資源開発センター新営基礎工事に伴う立会調査 (9904)

〈調査日〉

1999年7月19・26日

〈調査面積〉

約2m²

〈調査員〉

小畑弘己

〈調査概要・結果〉

直径1mの基礎用ピットの掘削に伴う立会調査であったが、既存建物の隣接地であり、それらの基礎によってかなり破壊されていた。遺構・遺物ともに検出できなかった。

図25 本荘南地区調査地点位置図 (1/2000)

